埼玉
郡誌
川越図書
六
イ加3
4617
6

頭書増補訓蒙圖彙巻之十二

畜獸

此部ハ山野人間ともに多くのけだ物を志るす

○麒麟ハ仁獸なり
麕身牛尾
一角あり牡と
麒といひ牝と
麟といふ生虫
とふまじ
生草を踏まじ
聖人の世ふ
いづる獸
なり

麒麟

京都帝国大学図書之印
川瀬氏庵
13

○獅子ハ百獸の長なり一日ふ五百里を走る虎豹狐狸食ふ故なり

補 虎豹とへども獅子とたふ恐るゝ事天竺の猛獸ふく通力去ぶと侍りのあり一名猩猩といふ

獅子

○獬豸ハ異國の獸なり其形獅子に似く一角あり一名神羊と云能曲直と

補 皐陶獄を治る時その罪うたがひあるものハ獬豸にあふ罪あるものハ是を食罪なきハうるんぞと

獬豸

○虎はくちゝ猫のごとく大さ牛乃如し色黄ふちて斑点をなす一身の力斑点あり夜わふ一目は光と放ち一目は物をくらす奏雷のごとくなる風補とおこりを山よりして虎一奏吼るまい百獣恐をそれとなり

○騶虞は白虎なりその尾身よりなゞ〳〵仁獣なり

○豹はかゝち虎によく似て頭黄く面白く毛色補黄白きりゝめを基黄なり故に毛采とりむと

○貘は熊に似たり象の鼻犀の目尾は牛の
ごとく虎の足銅鉄及竹を食ふ
よく疫癘
ゆめとらしむ
枕ふまづいて
貘まくらと名づく

○象は異国の大獣なり
鼻牙あり
補食は口なり
ちからあり
鼻をもつて
吸ひとり三
斗一升ばい
乳を大山ふ
山ふをむあり
牙ともて
筆のうつは
ものをほるる
象牙とふ
なり

○犀い毛豕の
ごとく蹄よ
三甲あり
頭い馬のごとく
三角あり鼻
上額上頭上
ふあり
○熊い毛色黒く
豕に似たり胸
に白脂あり俗ふ
熊白といふ洞穴に
すむと穴熊といひ
木にすむを木熊と
いふ熊膽くまの
たなごろ熊膽くまの

○狼い狗に似て大也
頭もとがり頰白く
前足高く後ひくし
口いかり大きく
力強く猪獸
をとり食ふ
ゝく後をとる
をみる
○豺い狼の類
なれども黒ぶちあり
頰白く尾ながし
狼よりはやく
小く力強く
猪獸を喰ふ
悪獸なり

○鹿は馬のごとくにしてふとり頭長く眉細くうるはし　牡は角を夏至よりおつ牝は角かしら六月よりおつ　牝は毛をうつふ秋のをはよりつよくなりて毛をうつす　虚労とあるさはひ腰とあるとめ一切の病に益あり

○麋は鹿のみなり

○麞は秋冬は山にをり春夏は沢に居る　鹿に似て小さく角かしらく黄黒色也　雄は牙あり

○麋は鹿にして色青黒あり大さは牛のごとく目の下に二の穴あり夜の目とする

○麤は羊に似て青色あり　角は細くて毛あり　人の指ほどの長さ四五寸皮をとりて褥とす

○麝ハ鹿ニ似て小さく色黑
臍ニ香氣あり
補ハ麝ハ雄ハ臍ヲ有ル故ニ雄ノ臍ヲ有ルヲ云

○羊ハ羊毛ノ羊
なるとく群ヲ
なをうく群
のごとく羊に
ちなむ

○綿羊ハ羊の
毛のながきもの
をいふ夏羊
胡羊と同

○豕ハ豬疑の物名
なり野豬豪豬ヲ
とあり不潔を喰ふ
よりて家といへり
賢虚を補ふ

○豚ハ家の子也唐人ハ
これを常に食ス

○野豬ハ腹小く脚
ゑ〻毛褐色牙ふ
てくけ拔る力つよ〻
味甚毒多し癲癇を
治し肌膚を補ふ

○山豬ハ項脊に棘
髭鼠あり長さ二尺ば
かり筋のごとく鰐
ときハ矢を射るが如し

○馬い火氣を受て生る火い木氏生ずる事わくいと故ふ肝わつく膽なし膽い木乃精氣ゆり木勝不足を故ふとの肝とくらくるの い死を

○駒ハ馬二歳ゆり と駒といふ又五尺以上と弱とゝ

○驪い馬の純に黒きものゆりくろこまなり

○騮ハゆり氏馬乃黒きゆりくろこまなるゆり駒同ゆげのむまなり

○驄ハ馬の青まろきゆりまろこまなり

ゆげるゆり連錢葦毛

○駁ハ馬の色の純ゆりぶちてまぶちゆるなり駁同ぶちひまも

○牛は田を耕す畜なり唐
よりは牛は殺して祭る俗
野牛あり牛あり牲
ふるゆゑに大牢という

○犢は牛の子
なり犢乃皐
男根に似
るゆゑに男根を犢皐という
なり

○驢はうさぎ馬と
いふ耳ながき
馬なり唐
よりは是をいふ
倭國にはなき
馬なり

○駝は背に肉鞍
あるて峯の
ごとし頸ながく
ちゝく脚低
其毛溫厚
して狐の毛
ようにもあらず
なり長い
ゆゑ

○狐い狗に似く
鼻とりて尾大
かわを貢ぎて
夜出る馬骨狐
ムラムラて吹ぶ光を出
し食と求む是
と狐火といふ玉と
ムラムラて光とおとと
もいへ百歳を経て
小狐と化して化る
といふと
○猫い眼睛子午卯
酉ふい糸のごとし
寅申巳亥ふ満月
の如く丑未辰戌よ

へ東と核のごとし鼻
常に冷なり甚至
一日あるくあり
○狸い虎狸ある猫
狸ある猫狸いとし
食とべるを頭とり
口方ある狐虎狸と云
○貉い狐狸ふ似さ
て毛黄ゆて褐色
なるを体ある貆
いふて夜出る
○貂い犬ふ似て喙
とがり足黒く毛褐
色あり尾長くて
ゆくことおそし耳
聾てんと云

○獒犬は犬大なり
高さ四尺なる狗
獒といふ俗ごうを
を唐犬といふ
○犬の味鹹温毒なし五臓を安し氣
を益し胃に宜し
○獷犬は毛長し
尨狸獅犬同し
むくいぬなり
○蝟鼠は貓の
脚短く尾長し
色青白し足老
人とさを山谷田野
に住む蝟同
○靈猫は南海の山
谷小生をめくらた
ぬきのごとし淡い
鹿斑のごとし
○兎は赤足みど
かく尾は九の孔あ
辛平毒なり中
を補ひ氣とまを
○猿は禺のたぐひ
猴に似て臂なし
よく樹の枝を攀
○猴はいくらも人に似
たり腹に脾なし
よく行とうて食
を消をよく立く
ゆくはさんりく
たて物に害を

獒犬
獷犬
犬

蝟鼠
靈猫
兎

○獺ハ水中にすむ四足ともに短し色青黒し魚ばかりを食べて水氣脹滿と治を多食べるを

○貂ハ鼠のたぐひ大にして黄黒色かるくもろくしてわてくるり帽子領にして裏毛とし世ぐ俗に栗鼠と云

○鼯ハふ狐のごとく肉翅蝙蝠に似たり脚みじかく尾長さ三尺ばかりと声人のよびごとく夫煙と

喰ふ毛ハ皮ばかりイトにあり山くぢらるるさにのがるるわこなどを

○鼹ハ鼠のさびあり皮裘よつる

○海狗ハ臙脂腑腑なるを形狐にして尾ハ魚のり身に青白き毛あり又青黒き點あるを腑ハ脾腎の薬なり

○海獺ハ獺ハ似て大さ犬のごとく

脚のうへに皮あり毛あり
て濡るゝをわづらふ
○水牛は色あをく腹大に
そびゑもかゝら豬ゝ似たり
あまた食をれば消渇を
やめ脾胃と中あひ虚を
ひきおこす水腫を治す
○猩猩は海中にをり獸也
毛色黄ゝして猿のごゝ
耳白く面と足人のごゝくに
て酒飲このむ血をとりて深
○狒々は猴年を積て狒々
となる人形人のごゝくに
て大なり肩長く反踵髪を
被り迅走て人を食ふ人と
こゝをいたよ矣

海狗 せつこ

海獺 をそ

水牛 すいぎう

○鼠は四歯ありて牙なし前の
爪四つ後の爪五つあり小児乃
驚風てんかんを治す
○鼹は鼠の孫ゝ鼠のちの
さいのあり人をくらひて痛
みをなす
○鼹は鼠のちの伯父の化
するものあり鼠に似て頭も
わのちゝけゝく尾かゝ毛色
黄黒し地中をうがつてみ
を以食ふ日月の光をおそる
○鼬は鼠ゝ大ふ牙あり
四足みゝく尾大なりいろ
黄ゝくわゝく鼠とる
○角はわゝそふをありけゝわ
角とりくわゝそふなる

鹿は夏至に角おちて
秋分ふけぬれば鹿角水
牛の角器はつくる
○牙は歯のおゝきなる
ものゝ象の牙を
大きてうの物とは
そゝ猪の牙は物とを
つくるなり○ふを
○駿は馬の頸にあるさ
てがゝゝゝゝゝゝゝ
いかゝる髪髻鬣
ゝらびゝ同
○蹄はけだものゝ足の
さきにあり麒麟は蹄
のもとに肉ありて物とふ
んでやぶゝるといゝ

頭書増補訓蒙圖彙巻之十三

禽鳥

此部には山林ふるむらの
くゝるとのゝぞたゝ

○鳳凰は神霊の鳥
なり雄を鳳と云雌
を凰といふ其かたち
雞に似たり羽は五
彩をそなへたり又
天声は簫のごと
生虫を啄て生草
をふまず桐をこのむ
竹実をくゝ
鳳皇瑞鷗並同

○孔雀は大さ鷹よりも大きくして人かしらは三色にして
く長さ一寸余背
緑色にして光りあり
尾の玉は青くして
人の物をくらふ歌
尾とひきて家

○錦雞は山どりに
似てふく羽色は
美なり孔雀のも
称乃こゝ〜鷩雉
系鷄並同
○白鵬は山雞に似
て色白し黒き文
あり尾の長さ三四
尺ばかりあり食と
きは中代補ひ毒
を解を

○鶴の長さ三尺余嘴乃長さ四寸項目頰わく脚めとく頸ながく指かたく羽白くつぶさ黒し夜半になく声よくりて孕むと糞石ヨ化を

○鸛の嘴に似くいつぶき丹うをとび長く喙わく色灰白つぶさ黒しる木に巣

○鷸鴫の鷸雛ありまるづるかるも

鸛 こうづる

鶴 つる たんてう

鷸鴫 しぎ

○鴈の大なるを鴻と云いひふくるを鴈と云久しく食をまこと気をどうし骨をさうんふを

○鴻の鴈の大なるのなり江渚に多くわつるるを人ふりとも也五勝を利し丹石の毒を解を

○鵠の鴈より大なり羽白くるく色味ひわまく平毒なし人の気力をまし脆脚と

鴈 がん

鴻 こう ひしくひ

鵠 こう くぐひ

○鴛鴦は蒼白の二色
あり○雄は絲嘴黄
に脚紅あり○雌は
食をもとめ五勝の熱
を解す
○鴛鴦は鳧に似て
あり○雄は頭黑
羽色白きあり頭黑
さいかもの羽色のごと
大寒毒多し風虚
寒熱水腫を治す
○鶴鶏は鳩の大さか
どあり陸をあゆむこ
とあさく水に入て

魚をとる
○鳧は品類多く大
小あり羽色さまざま
もろ〻圖とるところ俗
ふつう真鴨あり中秋
補ひ気を養ひ胃を平ら
○鷗は白さ鴿のごと
嘴あかくむらがり飛
で日ふくやく海をこ
ゆ三月に卵をうむ
○鴛鴦は大さ鴨の如
し色黄黑羽青くひ
ろく毒あり夫婦和
せざるものにいひとる

食いしむ

○鷺い頸やそく長く喙脚ともに長大小色小なるい頂に長き毛五脾をほ[illegible]と補ふ

○鵁鶄い水鳥なり大さ鷺のごとし灰白色背黒とせゞろぐといひかしわと星ごいとゝ諸魚の毒を解

○紅鶴い名朱鷺とゝ鷺より大なり色白くかしわゝ裕ふたうぐとゝ云

○鷸い大さ鳩よりかしふし喙脚長く羽茶色ふ黒きふあ田沢ふをむ大ふわゝ大なる紋ゞをきとゝ蹠補ひ人と暖

○鸕鷀い鴉に似て頸長く喙かし長し水ふ入てうく魚とゝる林木ふ巣くふ漁人ゝ入て魚紋とゝしむ

○就鳥は鷹乃大なるものなり至て大なるは七八尺なるもあり其色は黄みをおびて黒くふとり嘴黄なり深山にをゝく空中にかけりよく獣をつゝ喰ふ

就鳥

○皂鵰は鷹の大なるものなり翅つよく空中をかけ飛めぐり諸鳥をとる獣をとり食ふ其長二尺あり唐土にをく大鷹といふ就鳥皂鵰をいふなり日本にをくは大鷹と称するもの也

皂鵰

○鷹い惣名ゆえ大
小との品多く勇猛
の鳥なり四猟ふも
ちゆく猪鳥とそ
ゝむゝ事いとのゝ
神功皇后の御代り
百濟國よりそゞめ
鷹狩献ぜしとや
ゝゝゝ代ゝ鷹を
りてめゝびゝ鷹い
朝鮮國の産を第一
とゝ
か

鷹
たか

○隼い鷹の中ゆく
ちゝさゝたりのゝり形も
大みゝて鳶かゝどゆき
ゝ雑鳳鴨かゝどの大
鳥ゝとゝふ鶴なゝふ
い隼ゝ二羽ゝゝるゝと
ゝゝ鶴同
○鷂い鷹のゆゝさゝり
なり鷂のゆゝさゝと兄
鷂ゝゝゝゝゝにふきゝ
雀鷂ゝゝゝいづゝも
かゝちふゝけゝびゝ鳥

隼
はやぶさ

白鷹
しらたか

とるあり

○雀鷂　雀鸇

何をも鷹の名小鳥とる鷹の種品四十八あり鳶鴟梟とるとて四十八種とせり出るとゝ人ども狩猟にもちゆる鷹い其飼人の名付るあり又むしろ名鷲の鷹にい悉く異名あり亦異國を

鷂　たか

兄鷂　このり

つくりし鷹ふい異類ゝゝにあるべし唐鷹高麗南蠻琉球日本にも東國西國北國四國中國にくしとの國ゝのゝ

このりあるとゝ鷹乃羽いかゝ羽ふた四枚あ羽合て四十八枚尾ゝ十二枚ありいづれも名あるゝ鷂九尾八十四枚あり

雀鷂　ささ

雀鸇　ささ

○鶯はもとより青し
立春のくちとぢめて
さへつる声春陽に應
ず

○鶺鴒は小雀よりちい
さく赤黒く黒きふ
あり寒中雪中ふ
さくろ莫は居らず

○鶏は冬さくる雪
ぢんれとりは青くひ
る羽色すりぞうう
ひくさいろに黒
き羽すぐる

○山雞は雉ふ仙
てをこ小くた
て尾長く羽色黄
赤し山ふすむや
鶉雉といふあぶと
食ををいい中ふ補ひ
気ふすと

○啄木は小さい雀の
ごく大きいひよどり
ぢぐあト腹赤く背
雉のごく本ふつき
ろろく出と合ふ

○雲雀の一名蒿雀
とゝの雀うかゝ大
に茶々ふゝてふわゝ
三月の始より夏至乃
頃まで空ふゝとうく
ゝ鳴る湯ゝ沸おゝ精
髓とゝざゝの
○雉の雄の羽々ゝ
尾長ゝ雌の茶々
ちゝくふゝり春湯ゝ
至りてゝく九月より
十一月まで食をゝ

○練雀の尾の長き
と短との二種あり大
さひよどりゝふく
黒く褐々尾ふ白に
毛あゝく練る常
のごゝ
○鴉の雀の大さゝと
あゝく淡青く也
ふゝり冬月多る俗
わをゝとゝ此鳥と
黒やにふゝて腫物
に付て妙藥なり

○鶉いしやごりの大さなどあるく丸き形なり黑身に斑あるふあり赤ふ黑ふの二品あり秋のとくふ至つてあく人此声とい賞じて多く籠に入てり人家とこのんで舍ふあり食とれば五勝とおぼゆ中をまをなり

○吐綬雞い大さ鷄のごとく頭雑ふ似者う羽の尖黑黄よ赤てかしらあり項り嚢あるく肉綬と紐日和よく快き附いこの嚢とのぶくわそぶ

○山鵲い鵲のごとくあて尖黑く交茶あり背あく尾長くまてとをく飛ことわなりぞ

○鶤雞は雞の大なるものなり一名倉雞
といふ和こし蜀
中に多し羽色黒
白の二品あり其性
勇みたつく闘ふ
又ちやむ闘うり渡
り雞あり
ちやむといふ鶤雞
ようはしふく脚
ふくくとして勇也
闘とこのむ

鶤雞
たうまる

○雞は朝鮮國を
良とす羽色は品々
あり俗ふたやくと
といふ笑食すれば
虚を補ひ中気あり
ため血とる婦人
の崩にし
○雞は諸鳥孔巣
だちあり和く生
きてみづうを啄
雞といふ毋ゐる食
ちひり伏穀といふ

雞
ふいう
たうく
雞
ひる
ひよこ

○矮雞いりつとし
江南ふるいから
かくして脚ろぶふ
二すぐろと

○鷽い雀より小く
羽色文采あり腹の
下白くしてうつく
しき鳥なり

○燕い雀の大さなり
あり泥と含て屋宇
に巣をつくる戊巳の
日伏さるとかり

○鳩い惣名にて類多
かし圖する處い俗よ
りよるべきかへ幡
鳩ともいふ頸のまわり
黑くまるぐ斑ありて
ぐるし羽色灰白く活
人此鳩をきらぐ

○青鳩い山に住く里
に出ぐ羽色緑褐色
かり食をれば虚を
補ひ血を活を
天子帝王の食是なり

○鳲鳩は色褐みて三月穀雨の後ていく食をまい神を安ぜんつく鳥といふ是も鳩の類みて三月の須ゆく声を聞て豆をまくとしるし

○鴿は堂塔に多くあつまりゐて精をうばひ気を益悪瘡を治藥毒を解き多く食をべし

○鶉は鴨の大さ羽色茶みてふ有巣の暮に是を食を味ひよし

○鶸は鴨ちいさく茶色みて頭鷹の如く小鳥を追肉食を小児言ておそれる鶸の踏枝ふてうつり

○鶸はうぐひす雀ほどわり羽色黒く黄なる羽すじる春さる

○畫眉は鸝鶻鳥
かしらくろく雀のごと
羽及び尾くろく頰白く
黒き毛わり

○鶯は鴨より大ふ
翅ふ青くくろふ黒き
かたち羽わり秋のま
ちかき月よりなき鳴

○杜鵑は鴨より大ふ
くちばし黄黒く口赤し
四五月の頃夜陰より
なく杜宇子規同

○鴨は鸝鶻かたち
又喇喇鳥ともいふ
身首とりふ蔦孫
どもに色ふ黒きふわり
諸木の實を食ふ
秋冬多くなる

○鶺鴒は背かそく
尾長し花ときは鳴
居ときき尾をうごかす
羽白背黒きをせぐろ
といひ青く黄なる
きぜをきいとい

杜鵑

鴨

鶺鴒

○翠雀ハ一名翠鳥といふ小雀の大さなり頭背とりふるゝ光つゝく美なり鳥也ちやうといふ

○蠟嘴ハ名鶸脂といふ小雀ひよどりの大さなりて嘴ハ黄ゝく黄ゝ又赤ゝとの鳥ゝ蠟嘴と同喙薄赤ゝ

○烏鳳ハ雄黑く尾長ゝ一名王母鳥といふ

○小雀ハ頭ハ赤の顆のごとく目ハ椒の目のごとゝ其性尤淫乱なり食を主ハ陽とちんみゝ気とハ腰ひざ冷わゝ小便とちゝ血崩帶下と治を頭と食べゝ瘡を発を

○鸚鵡はよく言鳥
なり白青くみ五
色あり青き羽赤
喙あり唐鳥なり
○竹鷄は鷸鴿に似
てちいさく褐及み
てまだらに赤し
尾なし蟻をくふ
水色にたちむ

○鸛鴿はさち鳥
に似てふくよく人
言とかなとむ唐鳥
なり
○蝙蝠はこうもり蝙ふ
似てつばさは紙とそる
ごとくしものあり
夏より秋の末まで
夜こそふ飛めぐりく
蚊と食ふ昼は洞穴
ふかくに居つばきの
さえふぎあてくる

○鴉は背大かてむ
さわる事と母黒焼
みてやせ病欬嗽
労疾と治そ
○烏は背かそく鴉
よりふかりなそく
母哺こと六十日巣ゞ
ちちそ母と哺こと
六十日ゝて養烏こと
○式鳥は鷹に似くゝと
鴟同黒焼ふしく
頭風と治そ

○怪鴟はふくろうの
たぐひにて夜出て
昼はかくれ居ること
ちは鷹ふ似くふし
不祥の鳥なり
○角鴟はかちそ
ろうにてちいさく頭
目猫のごとく光角
あ耳わり長くて
夜いづる声老人乃
わの如ごとし

○梟ハかくちさ鳥に似てふく頭大なして丸く眼大多り夜出て昼ハちゐさ居る雌を声さけぶごゝ母鳥と食ふとゝ不孝乃鳥とゝり

○鵲ハ大さ鴉のごゝ尾とゝて長ゝ嘴黒ゝ食をきハ淋病消渇婦人ハ食をゝ

○秋雑ハ雑に似てふゝ頬白く脯長く尾みゝく背に白ゝぶゝあり田澤のかゝふをひ

○鴫ハ大さ燕のごゝ嘴かゝちう大ふ夢て長ゝ足のゝ紅て短ゝ水をにあて魚をゝる土ふあるかりゝく巣つゝる処身黒く青くひゝる

○火雞はかくち雞ふ
類して大さ七八尺
長く目ふ毛沢を三
百里異國の鳥なり
駱駝馬ふ似るゆへ名
駱駝鶴とも又

○鶏は鷹の類なり
鷹に似て羽色黄白
なり海邊水上に
飛めぐりて魚
とり食ふ

火雞
一名 駱駝鶴

○羽斑鷸はちどり
たゞひとり羽をぐ
にふありてろろ
田澤にをむ鷸と
同くむぐり花
○鴆は水鳥なり大
ふあり かくち鴈鳧
類して脚は長し

鶏
みさご

羽斑鷸

鴆

○鶺鴒ふひとつよ大さのようにてふく頭白く背黒白の毛なり秋の夾多くむ色こくて味ひ美也

○椋鳥大ひくとつふひくとて大多く羽色もくろく夏秋の頃多くひとにあつべ

○菊戴小至て小さき鳥なり頭身共青し頂に黄なる毛あり天

気よくわくこゝろあるい頂の毛とひらけば中よ星紅の毛ひる冬月多くなる鳥なり

○文鳥小雀やどあり羽及黒く頬よ丸く白き毛あり腹白し

○四十雀小雀より小く頭黒く頬丸く白し背いろを青く腹白く黒き毛あり秋冬こゝろ

○山雀は雀の大さ
にして頭くろく背
黒くくろかれ色あり
羽づくひるくちそと
くくるゆゑ籠に入
て飼とくあり
○鶺は四十雀に似く
小し是も飼置ふは
毛色うつし
○小雀は鶺に似て
くろくふしいまも
秋乃をゑにてくる

○繡眼児は雀より
ふし羽色もぐ色
腹うを黄あり目の
まわり白し多く集
て枝にあし合をゆる
鳥あり
○ゑみがは至てゆき
鳥あり頂灰白ゑ羽
色うを黒灰白の毛
まじりをわりを毛色
尾長し秋より冬
にいたりてゆを来る

○駒鳥鴨より小く
頭背とり小赤茶
色腹ゑ黒き毛あ
山に住て里へいでど
鳴声とゝ賞ゞて
飼ゝなり
○九官い一名秦吉
了とゝ鳩より小く
惣身黒く翅小白
き羽わりよくゝの
言ふゝと左唐鳥
なり

○風鳥いとち雀
よりと大ふつゞき尾
ふ長き毛あり
てみの紙きるが如
し色い紙中そひ
ゝあり三ゝ色ある鳥
なり
○鸞い比翼鳥とも
書なり雌雄つゞき
とりゝて花とゝ
此鳥實ゝ見ゝるゝ
ときなり

○喉紅鳥いかるら雀の大さありのどより胸ふくらて紅にして黄くちばしも黄色ゆあり

○深山頬白い小鳥ふく羽色黄なる鳥あり

○黄雀いもずめふくて黄あり又紅雀ともいい紅の色あり又入門雀ともいもも

深山頬白

黄雀

鸞

○鸞い神鳥なりやまとり鶏ふくて尾長く声五音にあるる鏡とゆんもい舞

○蒼鷺いさぎよう大ふて青く腹白雨夜ふい羽青く光ゆそ人怪みたる

○葦雀い雀より大ふり性く鳴葦芦の中に居る河岸澤のやうふ多

蒼鷺

葦雀

○鴆は鷹に似て
紫黑く喙赤黑し
頸の長さ七八寸蛇を
食ふ大毒鳥なり鳳
凰とおなじ

○雉鳩は鴿に似て
羽背黑赤く茶色の
ふちり竹林に住とも
こへとなく

○狗鳴は鶏身茶色
みく頸長く脚海
海鳥に住む

○都鳥はかもめ
背は黑く腹白し
觜脚あかし海鳥

○音呼は大ふくろ
大なる鳩の大さあり
ふなるはふくろ
及は紅色五色あり
唐鳥なり

○羽は翎翮並に同
翮に絲羽根羽茎也
翎はさきの翮上の
短羽なり

○翼ハ鳥のつばさ
なり翅同大鳥ハ翼ハ小ふ鳥と羽
と又
○尾ハ鳥の尾なり
膇同
○嘴ハ鳥のくちばし
しなり喙同又吻ハ
くちもと嘴ハくちば
○卵雛ハ諸鳥の
たまご鷄卵ハ五勝
を密水勝を温む